

## 「高野七口再生実行委員会」設立趣意書

標高約830メートルの山上盆地にある聖地としておよそ1200年の歴史を刻む高野山は、弘法大師信仰、納骨信仰、浄土信仰など様々な形態の信仰が時代を追って広がりを見せ、総菩提所として日本有数の霊場に発展した。そしてその周囲、女人堂・山之堂などが建つ「高野七口」から放射状に伸びる参詣道を利用して多くの参詣者が全国から訪れた。各々の高野参詣道自体もまた「高野七口」と呼ばれ、その代表的な参詣道である高野山町石道と、高野山と熊野本宮の両霊場を結ぶ小辺路の二路については平成16年7月に世界遺産登録されている。

世界遺産に登録されていない高野参詣道についても、高野山女人道及び高野三山の道からなる高野山結界道並びに「高野七口」とそれに繋がるものとして、京大坂道、黒河道、大峰道、相浦道、有田龍神道、西国街道及び三谷道など、その大部分若しくは部分的に改変から逃れて古道が21世紀の今に伝わり、今後、後世に良好な形で遺していくべきものがある。

しかし、世界遺産登録されている二路以外の多くは、一部を除いて残念ながら荒廃して忘れ去られ、未整備であったり、地図上になかったりと多くの問題があって、安心して一般の人々が歩けるものとなっていない。

平成23年度に、京大坂道のうち高野山への最後の難所であったと知られていた古来からの不動坂が、およそ100年ぶりに古道整備されて蘇り、多くの方が、不動坂復元ルートを歩いて登山することが可能となった。

これに続き「高野七口」すべてを再生させ、千年先、万年先、人が存在する限り地域の財産として自然・文化・伝統を保存、活用していくという熱い思いの結集により、「高野七口再生実行委員会」をここに設立するべく、心ある方のご賛同を望むものであります。

設立発起人一同